

# 「資源・ごみの収集業務で火災が発生しています」



～ごみ収集車などからの火災を防ぐために～

ごみ収集車の火災は平成20年度は3件、平成21年度はすでに2件発生しています。火災を引き起こす主な原因は、スプレー缶やカセットボンベが収集車の中で圧縮され、残されていたガスに引火したものと考えられます。

また、ガス抜きが完全でないため処理施設内での火災も発生しています。市では、このような火災事故を防ぐために、使い捨てライターは最後まで使い切りガスを抜く、スプレー缶類は使い切り、穴を開けてガスを抜くなどしてから、収集カレンダーに従って集積場へ出すよう徹底しています（正しく出されていない場合は、警告シールを貼り収集しません）。

- ・上野支所管内は「その他不燃物（金属類【危険・圧縮処理困難】）」
- ・伊賀、島ヶ原、阿山、大山田の各支所管内は「金属粗大ごみ」
- ・青山支所管内は「缶類・スプレー缶（資源）」

火災事故は、作業員の人命にもかかわる危険性があり、安全な収集処理の環境を確保するには、皆さんの協力が必要です。



伊賀北部地区 可燃ごみ収集状況の推移（指定ごみ袋制度導入による比較）平成21年7月末現在 単位:kg

	1～6月末累計	7月	累計
平成18年（導入前）	9,040,640	1,646,720	10,687,360
平成19年（導入年）	8,456,170	1,630,130	10,086,300
平成20年（2年目）	8,426,330	1,513,120	9,939,450
平成21年（3年目）	8,113,240	1,504,850	9,618,090

【問い合わせ】  
本庁清掃事業課  
☎20-1050  
FAX20-2575



## 「おかしいな」から「その話は本当？」へ

「人権なんか関係ない。わずらわしい問題だ。難しくおっくうだ。差別、差別というが、もうその様な事象は身近で聞いたことがない。」などという話を聞くことはありませんか。でも、現実はどうでしょうか。

### 明日に向けて

～差別をなくしていくために～

果から、人権に関する学習機会の少ない人ほど予断や偏見を強くもつ傾向があるとされています。うわさを自慢げに、人の心を傷つける様な「みんなが言ってるで・・・」という話をよく聞きます。「おかしいな」と感じて、その流れの中からなかなか抜け出さない経験は、誰でもあると思います。

人はとかく、「自分の問題ではない。自分には、差別意識はこれっぽっちも無いから」として自分に都合の良い解釈をしてしまいがちです。しかし、現実には差別事象が起こっています。もし、自分に利害関係が生じた時には、問題を自分から遠ざけることができるでしょうか。人権に関する地区懇談会や講演会などは、自分の「ものさし」を見つめ直し、誤った考えを正す絶好の機会です。

これら問題を解決するためには、偏見や決めつけを「おかしいな」と感じて「その話は本当なの？」と声を出せる自分自身になることです。誰もが生きる喜びを実感でき、差別や争いのない社会を実現するために、まず、自分から身近な人権学習会・講演会へ積極的に参加して、人権問題を正しく理解・認識し、「おかしいな」と感じる場面では、あいまいな態度ではなく、きちんと対応できることが大切です。

さまざまな人権問題、差別問題に取り組むには「寝た子を起こすな」という考え方は、問題の解決につながりません。そうした意識のままでは、いつになっても誰もが生きる喜びを実感できる社会は訪れません。これまでの意識調査結



（島ヶ原公民館）

# 救急車の適正利用にご協力を！

「9月9日は救急の日」 救急車の適正利用について

伊賀市消防本部から救急車の適正利用についてのお願いです。

救急出動件数は年々増加しています。中でも、軽いケガや緊急性のない安易な救急要請の増加は、命の危険がある重症傷病者への対応の遅れを招きます。救急車を要請するときは、緊急性があり、救急車以外に搬送手段がないかもう一度考えてみてください。

救急搬送の対象となるのは、災害により生じた事故やその他の事故、また急病により生命に危険を及ぼし、著しく悪化するおそれがある症状を示す疾病者を医療機関などに迅速に搬送するための適当な手段がない場合の事故などです。

## <救急車を要請する主な症状>

- 急に倒れた、意識がない
- 激しい頭痛、胸痛、腹痛など
- 交通事故による負傷
- 息苦しそう、息をしていない
- けいれんが続くとき
- 広い範囲のやけどをしたとき



## <次の理由では利用を控えてください>

- 病院に行くのを待たされる
- どの病院に行けばよいかわからない
- 入院、通院のためのタクシー代わり
- 救急車はタダだから…
- 緊急性のない軽いケガや病気（手足の擦りキズ、風邪、歯痛、酒酔いなど）

緊急性がなく自分で病院に行ける場合は、他の交通機関などをご利用ください。

症状から見て緊急性がある場合は、迷わず119番通報してください。

診察可能な病院がわからない場合は、救急医療情報センター☎24-1199で確認してください。

## 【問い合わせ】

消防本部消防救急課 ☎24-9116 FAX24-9111



アキレス腱断裂は年齢的にみると10歳代はほとんど発生しません。20歳代前半も非常に少なく、30歳代に入ると急速に発生件数が増加していき、その要因としては、やはり腱の弾力性の減弱と、運動

が增加しています。アキレス腱断裂は年齢的にみると10歳代はほとんど発生しません。20歳代前半も非常に少なく、30歳代に入ると急速に発生件数が増加していき、その要因としては、やはり腱の弾力性の減弱と、運動

このシーズンは昔からスポーツに伴うケガが多く発生する時期であり、体力が少し衰えてきた30歳代から40歳代にケガが好発しています。スポーツまたはレクリエーションに伴う主な外傷としては、アキレス腱断裂、鎖骨骨折や肩鎖関節脱臼、膝靭帯損傷などが多くみられます。なかでもアキレス腱断裂については、バレーボール、ソフトバレーボール、バトミントンなどをはじめとして女性のスポーツ参加が広まってきたので、30歳代から40歳代の男性だけでなく女性にも発生が増加しています。



アキレス腱断裂の予防としては、日頃からの軽い運動がもちろん効果的ですが、なかなか言ってしまうものではありません。ですから、アキレス腱は年齢とともに急な運動をされると思われるほど簡単に断裂してしまうもの、と自覚し、しっかりと準備運動・ストレッチを行い、無理をしない運動を心がけることが一番の予防法ではないかと思えます。これからのシーズン、十分に注意してスポーツを楽しんでください。

アキレス腱断裂の症状は腱断裂であるので、足関節が底屈（下へ自分で下げられない）できないことがあげられますが、後ろから蹴られた、後ろからボールをぶつけられたような衝撃を感じたといわれる方が多く、この訴えだけでも、アキレス腱断裂と診断しても良いいぐらいいです。

## 器診聴

市民病院だより

9月に入り、運動会シーズン・スポーツの秋になってきました。

スポーツに伴うケガに気をつけてください